



相内の 太刀振り で 冷害を克服

本村の無形文化財に指定され、五穀豊穣(じょう)を祈願する勇壮な踊りとして知られる。た六月九日にぎやかに行われ



『荒馬』威勢のよい若者が飛び出し、太刀振りの長い行列が続きました。

冷害を克服

本村の無形文化財に指定され、五穀豊穣(じょう)を祈願する勇壮な踊りとして知られる。た六月九日にぎやかに行われ

その後、田植後の豊作を祈願する行事として受け継がれ、約七五〇年の歴史の伝統のあるものです。

例年であれば、五月下旬に行われています。今年は田植えが遅れたため、約十日間遅れての虫送りとなりました。

わらで作った約四匹の虫を積んだトラックと『荒馬』を先頭に、小型の『ワラ虫』をかつく威勢のよい若者の後に村民約百五十人の太刀振りの行列が連なりました。

また、相内小三年生以上の児童九十九人が今年もそりのハッピー姿で参加し、祭り気分を盛りあげました。

沿道には、春の農作業が終わった農家の人たちがアマカメランも押しかけ、にぎわいは一日中続きました。

今月の主な記事

- 子供と高齢者の交通事故防止.....2
- 第12回村民健康会議.....3
- 広げよう検診の輪.....4
- 快適な村づくり.....5
- 田植え、植樹祭.....6
- 手作り運動会.....7
- 歴史漫步.....8
- おしらせ.....9
- 健康への道・戸籍の窓.....10

田植えも終えホッと一息.....
稲作りはこれからが本番です。



子供と高齢者の

交通事故防止

—夏の交通安全運動実施中—

子供たちが楽しみにしていた夏休み……。夏休みに入ると子供たちは解放感などから、せっかくなりに正しい交通ルールや安全な行動様式を忘れがちに

なりまします。そのため、活発な戸外活動や海、山への遠出とあいまって、例年この時期には子供の交通事故が多発する傾向にあります。また、高齢者の交通死亡事

故も依然として多発していますが、高齢者の多くは安全教育を受ける機会も少なく、めまぐるしく変化する「くるま社会」に素早く適応することが困難です。

七月二十一日から十日間実施される夏の交通安全運動を機会に、子供と高齢者の交通安全についてまとめてみました。

子供の交通事故

その特徴

- 子供の交通事故の特徴には次のようなことが挙げられます。
- 交通事故による被害のうち、中学生以下の子供について見ると、幼児の犠牲が多い。
- 事故の発生した時期を見ると、午後二時から午後六時までの間が多い。
- 事故の原因を見ると、路上

への飛び出しが圧倒的に多く、駐停車両や走行車両の直前直後の横断、信号無視、路上遊戯などによるものがそれに多い。

●自転車乗車中の交通事故の原因を見ると、一時不停止、安全不確認、信号無視によるものが多い。

安全な歩き方と

正しい横断

交通安全の指導は、保護者、特にお母さんが子供の特性と我が子の個性や日常の動作、行動を十分見極め、具体的にしかも繰り返して教えることが大切です。

●そのためには親が常に手本を示し、実際の行動を通して「正しい交通ルール」と「安全な動作」を身に着けるように見守ってやる必要があります。

- 道路を歩くときは、広がったり、ふざけたりしない。
- 歩道や路側帯のある道路では必ず歩道や路側帯を通る。
- 歩道も路側帯もない道路では、工事等で通れない場合を除いて、きちんと道路の右端を通る。
- 道路を横断するときは、歩



相内保育所で安全指導。子供の特性を見極め、具体的に繰り返して教えることが大切です。

高齢者の交通事故

その特性を考えて

高齢者の一般的特性としては、過去の体験や経験にだけ頼り過ぎて、現在の状況の判断を誤ることがあります。自分の考えを強えにくい固さがある、他人の言うことを受け入れにくい、身体機能の低下により危険の発見が遅れたり、とっさの判断や素早い行動がとりにくい。などが挙げられます。

●従って、家族や周りの人々は、これらの特性を理解し、分かちやすく説明することが大切です。

●家庭では主婦が中心となり交通安全について家族全員で話し合い、高齢者の安全意識を高めるためのものは、明るい服装や夜光反射材を身に着けるようにしてください。

第12回村民健康会議

忙しい人ほど必要な検診

ガン制圧は

早期発見・早期治療



例年に比べて参加者は少なかったが、中味のある健康会議でした。

「ガンの早期発見に努めよう」「高血圧をなくそう」をテーマにした第十二回村民健康会議は、六月十九日市浦村コミユニティセンターに村民約六十八人を集めて開かれました。午前十時からは、分散会が行われましたが、第一分散会では、野宮富子村派遣保健婦が、「ガンを防ぐにはどうしたらよいか」「健康者へ検診

の自主的受診はどうあるべきか」について問題提起しました。また、第二分散会では、村民生課健康管理係の奈良勝義さんが、「ゴミの不投棄とその対策」「清掃事業に対する協同意識」についての問題とその対応について提起し、活発に話し合いが行われまし

分散会の司会を務めた鎌田明美村駐在保健婦、浜田春土村環境美化推進連絡協議会会長、分散会の報告があったあと、中野高木連町社会福祉協議会会長が、「地域における保健と福祉」をテーマに講演しました。

中野さんは、講演のなかで「健康なうちはそのありがたさはわからないが、病気になるのはじめて健康の大切さがわかってくる。医学の進歩で長生きできるようになったが、自分の責任で健康管理することを忘れてはならない」と結びました。

また、「アメリカでは、地域社会の協調性が徹底し、自分から進んで取り組む姿勢がある。家庭だけでなく、地域全体の問題としてとらえ、自己主義的な考え方を変えていく」とアメリカで学び感じたことを披露し、集まった人たちへ感銘を与えました。

続いて、工藤誠一郎市浦村助役(村長代理) 桜庭廣次五所川原保健所長があいさつをしたあと、国民健康保険健康優良家庭、献血協力者へ表彰状を授与、被表彰者を代表して、奈良孝博さんが(太田地区・献血協力者)が謝辞を述べました。

分散会ではこんなことも話し合いました



健康管理について積極的に話しあう……。

検診必要、なぜあなたは……

ガン対策については、医学の進歩と治療技術の開発も合わせて、世界的にその関心が高まっていますが、いまのところ早期発見が最良の方法といわれています。昨年本村で死亡した三十二人のうち、八人がガンで亡くなっており、死因別でもトップを占めています。

村内にはいま、二十三人のガン患者がいますが、残念ながら、これらに患者(昨年死亡した八人含む)のほとんどが、検診を受けていない人たちで、定期的な検診を受けていれば約半数の人たちが早期発見できたとも思われます。胃の検査を必要とする昭和五十八年度の対象者は、本村に、千五百二十一人いたのですが、受診した人は二百二十五人(約十五分)と過去最低の受診率となりました。家庭訪問や健康相談等に出かけると、ほとんどの人が、検診の必要性は知っており、関心を示していますが、受診者は少ない……。恐ろしいはずのガンでも、

広報 トピックス



まつりの日、
日ごろの疲れもとこへやら、
五穀豊じようを願い一日中練
り歩き村びとたちの笑顔は、
底抜けに明るい。

早期に見出し、治療すること
によって、ガンを克服してい
る人はたくさんいます。
なぜ、検診を受けないのか、
受けられない理由はなにか、
をじっくり考えてみたいもの
です。

また、村では、一人でも多
くの人に検診を受けてもらお
うと検診の際、送迎バスを
運行していますが、ほとんど
利用されていません。

「自分の健康は自分で守る」
という、自主的な健康管理の
立場からは、これよりのか
と、疑問も感じるつもりです
が、送迎バス運行についても
合わせて考えてみましょう。

さて、あなたの

言い分は

分散会の参加者二十六人中
約半数の人が、ガン検診を受
けていないことも注目される
ところで、会議では、いろ
ろな角度から話し合われ
ました。

検診を受けている人、受け
ない人の言い分をまとめてみ
ました。

私の言い分

**検診を
受けた人たち**



■現在健康であるが、身う
ちにガン患者やガンで死
亡した人がいるので予防
的に受けている。
■人にすめている手前、
■自分でも受けている。
■健康を確認する意味で受
けている。

私の言い分

**検診を
受けない人たち**



■病名をつけられるのがこ
わい。
■精密検査を受診しても「

運行之たい

**お年寄り用の
送迎バス**



■子宮ガン検診を受けるこ
とを子供たちや他人に知
られることがはずかしい。
■カッター顔写真は、本文中検
診とは関係ありません。

受付け時間 の予約制を

話し合いのなかで出された
重要問題点については、出
来るだけ早く解決する方向で
検討し、働きかけの人のた
ちの健康を守るためには、村内
事業とタイアップして行うと
ともに受付け時間の予約制も
検討してみます。

また、出稼ぎ者対象の検診
については、共同保健計画で
再度検討しますが、検診率の
アップをはかるためにも、お
盆の時期にセットすることを
考えています。

◀虫づくりは、年輩者の手
でつくれるが、
やがては青年たちに受け継が
れるものです。



◀私、美人でしょ、
障害物競争では、小麦粉で
ちよつとハデめにお化粧。
(相内小運動会)



広げよう、 検診の輪を

とにかく受けてみる。受け
てみたいことは、ことがは
じまりません。夫は妻に、妻
は夫に、とナリの人へ」と輪
を広げ、忙しい人ほど健康確
認のために受けてほしいもの
です。

この大会には、地元十三海
洋クラブのほか、弘前、尾上、
鶴田、十和田湖の各海洋クラ
ブの小・中学生の選手ら百二
十人が出場しました。
七月三十一日、八月一日は
東北アロウ大会が行われま
す。
めざせ………全国大会



チビッコらが
熱戦

金木・相内分校 2年連続優勝 軟式野球部



働きながら学ぶ高校生のスゴ
うの祭典、第34回県高校定通
制総体で、金木高・相内分校軟
式野球部が八工に11対1と大勝
し、2年連続3度目の優勝を飾
りました。

6月25日行われた軟式野球決
勝戦途中からは降雨となったが、
ものともせずハッスルプレーが
続出、1回戦、準決勝を接戦で
勝ち抜いてきた金木・相内の猛
打が爆発しました。

金木・相内分校軟式野球部は、
来る8月10日から14日まで、東
京・神宮野球場を中心に開催さ
れる全国高等学校定時制・通信
制軟式野球選手権大会に2年連
続3度目の出場を果たすことにな
りました。

相内分校軟式野球部ナインら
は、昨年の戦績（ベスト8）を
突破しよう—と太陽が沈むまで
一生懸命練習をしています。

写真……優勝の報告で役場を
訪れた相内分校軟式野球
部々員。



第四回 十三湖カヌー大会
が、七月一日午前八時三十分
より十三湖現場カヌー競技場で
行われました。

これは、環境美化推進連
絡協議会や地区衛生組織が大
きな原動力となってきました。
特にゴミの自家処理運動で
は、簡易ゴミ焼却炉が普及し
つつあり、昭和五十六年の環
境保健アンケート調査による
と、簡易焼却炉等があると回
答した人が、三四・八割、現
在がない人が、三四・八割、現
在の排出量は、年々増加
の傾向にあり、今年四月から

一部地区には、まだ不法投
棄があり、地区住民から立て
看板の設置が要望されていま
す。
捨てられているゴミの状態
を見ると、粗大ゴミが車で運
び込まれ手のほどこし方が
ないところもあり、また、
車から投げ捨てられるジュ
ス、

また、相内小学校の児童も
通学路の清掃を続けており、
村ぐるみの運動が定着してい
ます。

本村は、昭和五十四年「環
境美化の村」を宣言しました
が、住民の環境改善意識や清
掃事業に対する理解も、年々
高まっています。

これは、環境美化推進連
絡協議会や地区衛生組織が大
きな原動力となってきました。
特にゴミの自家処理運動で
は、簡易ゴミ焼却炉が普及し
つつあり、昭和五十六年の環
境保健アンケート調査による
と、簡易焼却炉等があると回
答した人が、三四・八割、現
在がない人が、三四・八割、現
在の排出量は、年々増加
の傾向にあり、今年四月から

今年、四月二十二日地区
住民三百人の参加で、第一回
目を実施しましたが、道路清
掃終了後の側溝清掃には、農
繁期にもかかわらず、四百人
が参加しました。

また、相内小学校の児童も
通学路の清掃を続けており、
村ぐるみの運動が定着してい
ます。

環境美化宣言の村

快適な村づくり

あなたの活動が実を結ぶ

年間を通じて、週一回のゴミ
収集を行うことになりました
が、ゴミ処理については、い
ろいろな問題が発生し、その
対策が望まれています。

なくしたい ゴミの不法投棄

側溝清掃に四百人

定着した道路清掃

側溝清掃に四百人



1人の空缶なども、一人一人
のマナーで解決できるはずで
す。立て看板を立てるだけで
なく、お互いに防止対策を考
え、環境美化宣言の村にふさ
わしい快適な住みよい村づく
りをめざしたいものです。

第二分教会では、ゴミのない
快適な村にしよう！
と語り合いました。

応援合戦

運動会には、やはり応援団
はかせない、やはり応援団
さわやかな応援の音が聞こ
えてくる。



実りの秋楽しみに

相内小で田植え

相内小学校(原田良二校長)

では、「自分たちが植えた稲を
観察しながら農業を認識させ
よう」と、三年前から、ゆ
とりの時間を利用して田植
えを行っています。今年も
五十人が学校田へ出て田植
え作業に取り組みました。

○六アールの学校田は、
同校から東へ二キロ離れた桂
川地区にあり、PTA役員の
秋田谷清司さんが提供してい

るものです。

今年も、春先からの低温続
きで、昨年より一週間遅れの
田植えとなりましたが、秋田
谷さんから苗の本数や持ち方、
植え方の手ほどきを受けたあ
と、短パン姿の児童らは、一
列に並んで一斉に田植えを聞
始しました。

裸足になることの少なく
なった児童らは、泥んこに足を
とられ、足が抜けなくなった
ヨ、「冷たくて気持ちいい

！」と言いつながら一時間足ら
ずで作業を終えました。

今年からは、除草作業も予
定している同校は、農作業を
とおして、社会科や理科の学
習に役立てることにしていま
す。

昨年は、約百ポのもち米を
収穫していることから児童ら
は、去年より多くの収穫を見
込んでおり、十一月下旬の取
穫祭を兼ねた学校もちつき大
会を楽しみにしています。



田植えに取り組む相内小の子供たち

校舎を緑で包もう

市浦中 父母と一緒に植樹



「風雪に負けずに大きく育てよう」植えた苗木に名札をつけ、子供たちは将来の夢を話しました。

学校教育に緑化思想をとり
入れよう——と市浦中学校(一
長谷川良幸校長・生徒数二百
八人)では、六月十三日市浦
営林署の指導と協力を得て、
全校生徒、職員、父母による
植樹祭を行いました。
青森営林局八甲田緑化事業
所で、五・一七年間つられた
黒松百本、青森とど松八十本、
かえて(山もみじ)六十本の
苗木は、同校校舎裏と体育館
の裏側に植えられました。
この場所は、植樹に適さない
土地であることから、父母ら
が事前に穴を掘ったり、黒土
を入れて土壌改良をしました。

植樹の前に長谷川校長は、
「自分で植えた木に未来を託
そう。自分の生れ育つた
海と山と湖のある村に自信と
誇りを、やがて母校を訪
れた時は、過去を思い出し、
自分の足跡を自信をもってふ
りかえられる人間になつてほ
しい」とあいさしました。

続いて、佐々木富士雄市浦
営林署長は「森林と人間との
生活は切り離すことは出来な
い。生きていく木をいつまで
も見守り、後輩に引き継ぎ、
今日植える木のようにすくす
く育つてほしい」と激励し、
石川経営課長から植え方につ
いての説明がありました。
昨年までは、父母が中心に
なつて「ななかまど」や「桜」、
「とど松」などを植付けてき
ましたが、そのほとんどに支
柱がないため、せっかく根付
いた樹木も、風や雪で倒れて
しまうという状態が続きまし
た。
今年も、生徒ひとりひとりが
植樹して、同校PTA役員の
島津典明さんが寄贈した木
札に日付や氏名を記入し、自
分で植えた苗木に名札をつけ
ると同時に、風雪に耐えられ
るようにと支柱も添えました。

十三のふるさと意識

市浦中の『手作り』運動会



ふるさと意識を高めよう—と運動会に十三の砂山踊りを取り入れた市浦中の運動会は父母の参加で大きな輪に…。

風さわやかな六月は、運動会の季節です。前日から精一杯のこころをつくり、グラウンドの周囲には、それぞれテントを張って陣取り。わが子の健闘に声援を送る……。

一年一回行われる各学校の運動会は、児童・生徒だけでなく、父母や祖父母にとっても待ち遠しく楽しみな行事の一つです。村内各地区から父母ら約二百人がかけつけた市浦中学校

の運動会は、六月三日、同校グラウンドで行われ、全校生徒二百八人の手づくり運動会、がグラウンド一杯繰り広げられました。

また、今年の運動会では、これぞ市浦中健児だ!!と父母や来賓席から絶賛を浴びました。

競技種目やプログラムの進行はすべて生徒によって行われ、学年ごとに話し合い、アイデアを出しあってつくっていただけなのに、中味も充実していました。入場行進、競技の参加態度もテキパキとしていて、みるからにチームワークが、それの二つ一つに真剣さがみられました。特に、男子生徒による組み体操や学年ごとの応援合戦は、それぞれの特徴と

た。また、今年の運動会では、ふるさと意識の育成をテーマに、「十三の砂山踊り」がとり入れられ、十三の八木沢良藏さんと寄宿舎寮母安田喜美代さんの特別指導を受けた女子生徒全員が、みごとな踊りを披露しました。ゆかた姿の女子生徒が踊る、「十三の砂山」の輪は、来賓や父母の参加で大きく広がり、なごやかななかにも、ふるさとを讃嘆する運動会を楽しんでいました。



ガンバレ/父母の声援に力走……。



イチ、ニノイチ、ニノ…親子競技では息もピッタリでした。



よくがんばったネノごやかに進行される相内小の運動会

相内小学校の運動会は、六月十七日同校グラウンドで行われ、四月入学したばかりの子供たちも、親子競技や応援合戦等に元氣いっぱい取り組みました。

昼食をはさんだ午後からは、一年から六年生までの全児童が、虫おくりの太刀振りを披露するなど、地域あげて、なごやかなひとときを過ごしました。

ふるさと

奥の山塚

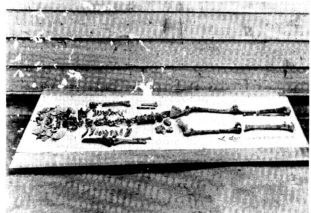
(2)



▶ 65 ◀

先住民共有の墓地

三輪・中居両氏の人骨片
発見のニュースが津軽地方
全体に伝えられ、古来から
の霊地おせどう伝承が、い



大正13年お瀬堂貝塚より発掘された人骨は、
東京大学に保管されている。

やが上にも高まつていきま
した。

大正十一年頃、当時津
軽の歴史説明は十三から
史スローガンとして、十三
史談会が組織されていまし
た。内海村長（現中里町）
を勤めた奥田順蔵氏を会長
とし、福士貞蔵、秋元省三、
佐藤公知の諸氏によって創
設された会です。地元の方
山内英太郎氏、未だかくし
やくとして私たちを指導し
てくれたのは佐藤慶治氏も
メンバーであったと思いま
す。十三湖周辺地帯を主軸
にした会です。黒石の佐藤
雨山氏も加入されています。
墓穴の性格は、十三史談
会によって計画的に発掘さ
れまして、北方に二穴、南
方に二穴の約一メートルの
径を持った四穴でした。木
炭と骨片とが出土しました。
しかも、北方と南方との墓

穴は約六メートルの長さの
抗道で結ばれていました。
約一、七〇年前の私たち
市浦村の先住民の共有の墓
所であったものでしょう。
詳細は歴史に載せます。

巨人骨現れる

お瀬堂の主が現れたのは
墓穴発見の翌年すなわち大
正十二年六月二十四日午後
三時のことです。
同道跡の南方は貝塚にな
っています。約幅三・六メ
ートルに親や蛤類の貝殻が
散乱する場所です。

史談会の発掘に参加した
某氏が偶然に発見したもの
です。初め足跡を見出した
ので、一行はたいへん興味
味を覚え、徐々に着手して
うというこになったわけ
です。約五、〇〇〇年前の
オセドウ鍾穴人の出現です。
三輪・中居両氏の夢枕に立
った靈魂このジャイアン
トだったのかも知れません。

村中大騒ぎ

二十四日の人骨出現はた
ちまち中に伝わりました。
村中ボツボツたる評判とな

り、翌二十五日朝には、お
びたらしい村民が集まり、
発掘者の制止もかずに各
自勝手に人骨周囲の土壌を
除去する騒ぎであったとい
うことです。二十六日には
更に動揺が甚だし、原形が
損われてしまうという騒ぎ
でした。近村からもたくさ
んの人々が馳せ集まったと
いうのですから、だれかが
人骨に触れたことによる破
壊だったでしょう。

人骨今ここに

オセドウ貝塚人骨は研究
のため、東北大学に移され
保管されていましたが、五
年ぐらい前に更に東北大学
人類学教室に移され、登録
番号一三三三〇として保
管されています。

私たちはこれからオセド
ウ人の安置場所を建設し、
郷里へお迎えする日を待
ちにしているわけです。



津軽のことわざ ③

のの部


能ある鷹は爪隠す 実力の
ある者はどそれをあらわさな
いことのとえ
喉がら手出る 非常に欲し
がるさま。
喉過ぐれば熱さ忘れる 苦
しい事も一時だけの事で
過ぎればケロリと忘れてしま
うもの。苦しい時に思を受け
ても楽になれば忘れられてあ
りがたく思わないことのとえ

野どなれ山どなれ どうな
つてもかまわぬという意
野原サ尻 大変あまじしい
ことのとえ
ノミの夫婦 妻の方が夫よ
り体格のよい夫婦
飲む・打つ・買う 大酒を
飲む、ばくちを打ち、女を買
う。男の悪行の代表的なもの
飲まない酒に酔ったのが
身におばれることの結果
があらわれること
乗りかかった舟 乗ってこ
ぎ出した舟 事態が中止でき
ない勢いがあることのとえ
のるがそるが 結果の予想
が立たぬま運を天にまかせ
ること。

情報をお寄せください

おしらせ

役場の電話は62-2111



8月は身元確認月間

警察署では8月中「ゆくえ不明者をさかす相談所」を開設しております。あなたの身内に、また近所の方に

- ◎家出して長い間ゆくえ不明になっている。
 - ◎突然いなくなって自殺したのではないか。
 - ◎出稼ぎに行き音信が急になくなった。
- など心配されている方はいませんか。

ゆくえのわからない方や、音信のない方の中には不運にも旅先で自殺や病死、あるいは事故死、特別な場合には、犯罪の被害者になっている方があるかも知れません。現在、家出人は全国72,404名、青森県933名、身元のわからない死体が全国29,723体、青森県344体となっております。警察では1体でも身元を確認して家出人を捜しておられる方の期待にこたえるため、8月中県内の全警察署に全国の資料をとりそろえて相談所を開設しておりますので、ぜひ相談においでになり身元の確認にご協力をお願いいたします。

破損したコンセントやコードはすぐ修理を

カバーが破損していて、電気がきている部分が露出したスイッチや、コンセントなどの使用は規則で禁止されています。

破損したスイッチやコンセント



野球部にも入っていますが、スポーツだけでなく、勉強にも力を入れてがんばりたいと思います。

を、そのまま使用しておりますと、人が触れて感電したり、ショートなどの事故を起します。



第5回 B&Gスポーツ大会

東北ブロック大会を市浦で開催、応援してネ!

財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団(略称B&G財団・笹川良一会長)が主催するこの大会は、海事思想の普及、スポーツ、レクリエーションの振興、さらには体力向上と各センター相互の連帯と親睦をはかることを目的に開催していますが、全国大会の予選も兼ねて行われます。

- 開催期日 昭和59年7月31日から8月1日
- 開催場所 市浦村
- 開会式 7月31日(内)午後4時から
- 場所 山村広場(海洋センター近く)
- 競技 ▶カヌー、カッター、ダブルスカル

- ▶日時 8月1日(内)8:00
- ▶場所 十三湖前潟
- ▶OPヨット
- ▶日時 8月1日(内)8:00
- ▶場所 十三湖羽黒崎

みんなが楽しみにしていた運動会だから一生けんめいがんばりました。競技の進行、応援方法などはばくたちなりに考えてつくりましたが、みんなが協力してくれたので助かりました。赤組の応援団長として、何としても優勝させたいと思います。

はくは、うんどうかいがいすき。みんなぼくのかつやをきたたいしてるんだ。



- ▶水泳
- ▶日時 8月1日(内)8:00
- ▶場所 市浦海洋センター上屋プール
- ▶剣道
- ▶日時 8月1日(内)8:00
- ▶場所 市浦海洋センター
- 開会式は競技終了後、各会場で行います。

大きな声援を

大会当日は、東北6県の22海洋センターから選手団550人、競技役員団100人が参加し、村内に宿泊して競技に挑むことになっています。心暖かいみなさんの大きな声援をお願いします。

「火入れ条例」がスタート 許可が必要です

「市浦村火入れに関する条例」が7月1日から施行されました。この条例は、村内の森林または森林の周囲1¹以内で火入れを行うおうとするときは、その7日前までに(役場に)申請し、村長の許可を受けなければならないというものです。

なお、詳しくは役場経済課までお問い合わせください。電話62-2111(内線27)

市浦村の人口と世帯

(59年7月1日現在)

人口	4,106人
男	2,025人
女	2,081人
世帯数	1,118



相内小6年 三和貴道くん

広報ロービー
力が入る
応援合戦

健康の道

▶ 3 ◀

七月には胃と子宮のガン検診があります。去る六月十九日に開かれた村民健康会議ではガン検診を受けている人と受けない人の本音を伺うことができました。毎年受けている人は「自分の健康のために受けるべきもの」という積極的な意志をもってのに対して、受けないでいる人は「忙しいから」「何か異常がみつ

合格おめでとぅ



第67回商工会珠算検定試験は、6月2日市浦村内四会場で行われました。合格者は次のとおりです。

- ▷二級 笹山靖子、山田美紀(脇元小)
- ▷三級 萬谷静子、成田衣千子(脇元小)
- ▷四級 若山さおり(十三小) 亀田由加子(浦田塾) 三上洋(辻分珠算塾) 山田美代子、中村千恵子(脇元小) 奈良靖宏(太田小)
- ▷五級 岩館絵利子(十三小) 竹谷光穂子、棚引伸子(脇元小)
- ▷六級 村上のぞみ(十三小) 白川欽靖 中井歩美、秋田谷裕子(浦田塾) 大川光峰(脇元小)
- ▷七級 秋田谷紀子(十三小)
- ▷八級 白川知緒子、八木沢泉、工藤弘子、品川裕美、中井寿子(浦田塾)
- ▷九級 鳴海咲子(十三小) 宮川則子(脇元小) 奈良満(太田小)
- ▷十級 工藤琴恵(十三小) 長利史子、浜田十和子、小山内みちる、木村信子(浦田塾) 萬谷由香子(脇元小)

次回検定は11月18日です。

ガンの予防に検診を

「かったらこわい」という消極的な声が多く出されました。ここで気にかかったことは、自分に何か異常があると思うのにもかわらずそれを発見されることを恐れる人があまり検診を受けていない人がいるということでした。病気、特にガンは初期は無症状に進行し自覚症状が現れかねるという状況で、十分知っていることでも十分を過ぎた人は三年前に検診で異常なしたたからという考え方ではいけません。市浦村にいるガンの患者のほとんど



検診は積極的に受けたいものです…。

は自覚症状が出るまで検診を受けたことのない人でした。しかも患者の約半数が、胃ガン、子宮ガン、腸ガンなど、早期に発見すれば手術で健康にもどれるガンなのです。忙しいからといって二年にたった一度のチャンスをのがしたり、異常がみつかるのがこわいからといって病気を自ら進ませている人がいるとすれば家庭の損失だけでなく市浦村の損失といっても過言ではありません。自分の健康、家族の幸福のために夫婦お互い誘いあって検診を受けてはいかがでしょう。(村駐在保健師 鎌田)

戸籍の窓



お誕生

- 亀田 春樹(十三) 文雄
- 中村 祐貴(十三) 日出春
- 岡本亜由美(相) 内隆雄
- 武田 結治(太) 秀生
- 近藤 瞬(十三) 秀生
- 相川八恵哉(脇) 久
- 工藤 克哉(脇) 秀行
- 葛西 詢(脇) 俊幸
- 秋田谷由美(相) 内長一
- 堀西 和輝(磯) 松丈輝
- 梶浦 真(十三) 英一
- 村山ゆき(十三) 省一
- 高橋 裕太(十三) 徹
- 佐々木達士(十三) 三
- 大澤 淳子(十三) 内
- 三和 得路(相) 内
- 三浦 千鶴(磯) 田
- 阿部 賢治(東) 三
- 豊島 操(十三) 三



結婚

- 三浦 正(相) 内
- 赤坂 玲子(青) 森
- 佐藤 満(相) 内
- 盛 満子(木) 造
- 白川 和人(相) 内
- 佐々木厚子(青) 森
- 戸野 孝彦(相) 内
- 但野 泉穂(福) 島
- 浅見 英生(東) 京
- 小山内朝子(十三) 三
- 工藤 雅敏(相) 賀
- 若山ゆみ子(十三) 三
- 三上 優(相) 内
- 高木美智子(弘) 前
- 鈴木 新一(中) 里
- 後藤 和則(静) 岡
- 新岡 咲子(十三) 三
- 本田 貞岩(手)
- 三和眞理子(相) 内
- 鳴海 都博(相) 内
- 青木 恵子(弘) 前
- 宮崎 セツ(十三) 65歳
- 葛西 恭一(脇) 元 57歳
- 藤田 ナル(磯) 松 53歳
- 相坂 茂良(十三) 53歳
- 木村 兼三(磯) 松 53歳
- 竹谷 二郎(脇) 元 76歳
- 安田 キサ(十三) 83歳

ひやひや